

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：札幌地区
- 2 事例報告学校名：札幌市立平岸西小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 越 野 宗 丈
- 4 キーワード：地域との「共育」を柱とした教育活動の実践

1 はじめに

本校は今年度で開校55年目を迎えた。特別支援学級2学級を含め全16学級、在籍児童は約380名と札幌市では小～中規模の学校である。校舎は平成23年に建て替えられ、明るく広々とした教育環境で子どもたちはのびのびと学校生活を送っている。校区内は豊平区としては市内中心部に近いながらも精進川や天神山緑地など、自然に恵まれており、毎年その特色を生かした様々な教育活動を実施している。

また、比較的広い校区であり、町内会連合会も「中の島地区」「南平岸地区」の二つにまたがっているため、子どもたちが地域の活動に関わる機会が多く、大変恵まれている。さらに二地区連合会も、時には児童の在住地区に関わることなく本校の子どもたち全員に分け隔てなく関わってくださり、子どもたちも気軽に両方の地域活動に参加できる雰囲気がある。



2 「あこがれ」と「思いやり」が連鎖する学校経営

令和6年度は学校重点目標を「あこがれと思いやりが連鎖し、学び・思い・願いがつながる平岸西小」とした。様々な教育活動を実践していく中で「私もあのような素敵な姿になりたいという気持ち（あこがれ）が他者を思いやる気持ちにつながり、さらその姿が他者を尊重しようとする姿勢（思いやり）に…」という連鎖を教職員一人一人が意識し、関わることで子どもたちの安心につながっている。また家庭・地域との「共育（ともに育ち育てる）」を重視し、将来のCS本格導入も意識しつつ地域の教育力を活用した教育活動の実践に力を入れている。

3 「地域のまちづくり活動」を活用した教育活動

(1) 各町内会まちづくりの会による活動

先ほども述べた通り、本校地域には二つの町内会連合会組織があり、さらに南平岸地区には「いきいき南平岸まちづくり会」、中の島地区には「中の島魅力ある地域づくりの会」という事業がある。ちなみに校長（教頭）は、それぞれの会の事業副部長等を兼職しており、事業の更なる発展・充実のために学校側の立場として尽力させていただいている。それぞれの会においても「子どもも大切な地域の一員」という思いがあり、子どもたち自身がまちづくりに参画できるような取組も考慮されている。

この他にも、札幌市豊平区の町内会連合会後援の事業もあり、子どもたちにとって大変恵まれた地域と言える。

①「いきいき南平岸まちづくり会」の取組より

本校は毎年6月に南平岸地区の町内会と隣の平岸小学校との合同で校区内の「花いっぱい活動」を実施している。本校は兄弟学年ごとに地域に分かれ、各地区に配置された地域の方々に植花の仕方を教わり、苦労しながらも楽しそうに取り組んでいる様子が毎年のように見られる。

今では本校の恒例行事として位置付いており、子どもたちにも地域の美化に貢献しているという意識が根付いている。



②「中の島魅力ある地域づくりの会」の取組より

中の島地区では、隣の中の島小学校との合同で毎年春に校区を流れる精進川にヤマメ稚魚を放流している。毎年多くの子どもたちがこの活動を楽しみにしており、本校の子どもたちの学習の場や放課後の遊び場となっている精進川河畔公園や自然の営みへの興味・関心をもつよい機会となっている。また、冬には地域企業も協賛し「アイスキャンドル大作戦」という活動にも参加している。その他にも地域の公園を親子で清掃する活動や町内会単位での運動会など、親子そろって地域へ関わる機会が多く企画実施されており、間違いなく地域の活性化につながっていることを実感できる。

さらに今年度は「中の島のマスコットキャラクターづくり」が進行中である。もちろん案の募集に関わっては中の島地域以外の在住児童にも分け隔てなく関わってくださり、学校として協力しやすい体制となっている。

③『豊平区スポーツ推進委員会』の取組より

毎年、札幌市豊平区スポーツ推進委員会が主催する「豊平区地区対抗少年少女ドッジボール大会」が開催され本校児童も近隣小学校と連合し、優勝目指してチームワークを競った。（本校参加チームは今年度見事準優勝）学校の垣根を超えた子どもたちの関わりは、小・中のみならず小・小連携のきっかけにもなっており、改めて地域との連携・協働の有用さを実感するものであった。



(2) 地域と学校がつながる防災・防犯への取組より

①町内会連合会主催の「避難所研修ミーティング」

自然災害が頻発する昨今において命を守る「備え」は万全にしておかなければならない。本地域には町内会連合会主催の「避難所研修ミーティング」を小学校を会場として実施している。参加者は地域住民ではあるが、その取組を児童に周知したり、防災教育と関連付けたりすることで間接的に子どもたちの防災意識を高める有益な取組となっている。

②スクールガード・保護者による登下校時の見守り

本校校区は幹線道路もあり、更に中道は住宅が密集した地域でもあるため、道路が入り組んでいる場所や、冬季は積雪が増えると通行困難な道が多い。その上、不審者事案や野生動物出没案件も年に複数回ある。

このような課題について、本校では随時、様々な立場の方から意見をいただき、その対応について共通理解をしている。子どもが安心して登下校ができることは学校として大きな願いである。本校は登下校時の交通安全や放課後の防犯に対する地域の方々の意識が非常に高い。子どもたちも多くの方々と顔見知りになることで、より身近で安全に対する意識を高めることができた。



4 おわりに

よく「子どもは身近な大人を見て育つ」と言われるが、本校地域は見て学ぶべき大人がたいへん多く、前述のように児童は日々たくさんの場面で活力をいただいている。そして、学校が生き生きしていれば確実に地域の活性化につながることは間違いなく、地域への「協力」ではなく「共育」を一つの「柱」に、今後も本校教育の推進と本地域の発展に努めていきたい。